

古写真や絵画で見る 仙台歴史散策

定禅寺と定禅寺通

仙台市博物館 学芸企画室 中武敏彦

第11回

定禅寺通の由来

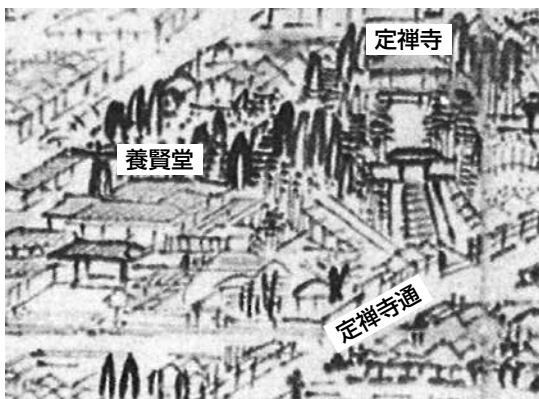
美しいケヤキ並木に彩られ、遊歩道の彫刻が人々の目を楽しませてくれる定禅寺通。来月にはいよいよSEND AI光のページェントが始まります。

定禅寺通の名は、明治時代の初めで定禅寺という寺があったことに由来します。現在の勾当台公園の中から合同庁舎の辺りが寺の跡地です。定禅寺は真言宗の寺院で、永正年間(一五〇四〜二一)の創建と伝えられています。定禅寺は伊達家の祈願寺として高い地位を与えられ、伊達政宗が仙台城を築く際には、寺を鬼門である城の東北に配置し、城下の守りとしました。

その定禅寺に向かう通りが定禅寺通です。ただし江戸時代の通りは現在と異なり、奥州街道の国分町から東に向かって定禅寺の門前までの範囲を指し、国分町から西は定禅寺通櫓丁と呼ばれていました。

寺から官庁街へ

江戸時代の定禅寺は伊達家の保護を受けてきました。しかし明治維新を迎え、明治四年(一八七二)の廃藩置県によって仙台藩が消滅すると定禅寺も



城下を西から見た絵図に描かれた定禅寺と定禅寺通
明治元年現状仙台城市之図(部分) 仙台市博物館蔵

衰退し、明治六年に廃寺となりました。その後、寺の跡地には陸軍の病院が設置されました。隣接する藩校養賢堂の建物は廃藩置県後、仙台県(翌年宮城県と改称)の県庁舎となり、周囲には宮城県警察署や商品陳列所なども建てられ、官庁街を形成します。

定禅寺通は明治時代に西側が広瀬川の手前まで延び、東側も大正時代の初めに旧定禅寺の敷地を貫いて、現在の錦町にあたる長丁とつながり、今の通りの原型ができあがります。昭和二年(一九二七)二月には仙台市電が仙台駅前から県庁まで開通し、道路も

拡幅され、仙台の主要道路の一つへと発展しました。

ケヤキの植樹

昭和二〇年七月一〇日の仙台空襲では市街地の多くが焼失しました。戦後の復興都市計画のなかで、定禅寺通は幅四六メートルに拡幅され、昭和三三年からはケヤキの植樹が始まりました。ケヤキの木が選ばれたのは、見栄えの良さと、仙台の気候がケヤキの生育に合っていたためといわれています。現在では一六〇本を超えるケヤキ並木の下で、季節ごとにイベントが開催され、市民や観光客を楽しませてくれます。

仙台市博物館では、二月一日(日)まで企画展「やっぱり絵図がすき!」を開催中です。定禅寺が登場する城下絵図も多数展示されますので、ぜひご来館ください。



ケヤキの植樹が始まったころの定禅寺通 現在の市民会館から東を望む 昭和33年頃 仙台市戦災復興記念館提供

企画展

仙台市市制施行130周年記念

やっぱり絵図がすき! —博物館で旅する仙台藩と城下町—

●12月1日(日)まで好評開催中!●

あなたの今いる場所が昔はどんな場所だったか、知りたいと思ったことはありませんか? 本展では、仙台下絵図や村絵図など江戸時代の「仙台」を描いた絵図、仙台藩領全体を描いた国絵図や、世界を描いた坤輿万国全図屏風など、仙台市博物館所蔵の絵図の一大コレクションを一堂に公開します。絵図が好きな方も、これから好きになる方も、博物館で旅をしませんか。

【会期中の休館日】毎週月曜日(11/4は開館)、11/5(火)
【観覧料】常設展料金: 一般・大学生460円(360円)、高校生230円(180円)、小・中学生110円(90円)
※30名以上の団体は()内の料金。このほか各種割引があります。



御分領中海岸絵図 夏高城・杜鹿 嘉永6年(1853) 仙台市博物館蔵

《休館のお知らせ》

12月28日(土)~2020年3月31日(火)

館内設備改修工事のため、上記期間を休館いたします。ご不便をおかけしますがご了承くださいませようお願いします。

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

TEL:022-225-3074 ▶11月の休館日 毎週月曜日(4日は開館)、5日(火)

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ▶ツイッター @sendai_shihaku ▶博物館HP

仙台市博物館

検索